

議事録作成の期間短縮やコスト削減を目指して、音声認識と編集機能が一体化した「VoiceGraphy」を導入

美唄市議会様では、これまで約3カ月かかっていた議事録作成の期間短縮や外部委託コスト削減、更には職員の業務負荷の軽減を目的として、オーディオ機能と編集機能が一体化した議事録作成支援ソリューション「VoiceGraphy」を導入。議会の発言者の言葉をリアルタイムで次々とテキスト化していく高度な音声認識技術と、担当者の使い勝手を徹底追求した編集機能などにより、議事録作成に関わる作業時間をこれまでに比べ約50%削減。スピーディな情報開示が可能となり、住民へのサービス向上に大きく貢献しています。



美唄市議会事務局
事務局長
藤井 英昭 氏



美唄市議会事務局
総務係
主任
小見山 智之 氏

お客様プロフィール

名 称 美唄市
人 口 27,520人（平成20年5月末現在）
世帯 数 12,940世帯
特 産 品 アスパラガス、米、焼き鳥、ハスカップ
観 光 日本最大のマガニの飛来地「宮島沼」、美唄山、芸術空間「アルティピアツツア美唄」、スノーフェスタ
U R L <http://www.pipaoi.jp/>

狙いは議事録作成のスピードアップ、コスト削減、職員の業務負荷軽減

札幌から特急電車で北東へ約30分の距離に位置する美唄市は、現在人口約27,500人。かつては炭鉱の街として栄え、現在ではグリーンアスパラガスや北海道米「おぼろづき」などで知られています。一方で、厳しい財政状況や少子高齢化による人口減少など、多くの地方都市と同様の課題を抱えています。市民との協働による街づくりをテーマに行政を進めている美唄市では、IT活用による行政事務の効率化やスピードアップはもちろんのこと、公式ホームページからの各種情報提供や書類の電子申請など、ITを利用した住民サービス向上も積極的に推

進しています。

そうした中、美唄市議会様では議会情報のスピーディな開示を目的として、議事録作成の改革を決断。その背景には3つの大きな理由がありました。第1は、議事録の開示までの期間短縮です。これまででは、開催された市議会の内容をMDに録音し、その内容を聞いて原稿に起こすまで約1カ月半。更に、会議の音声を再度聞きながら資料とともに内容のチェックと校正を行った後、印刷・製本に回していたため、議事録の完成まで約3カ月という期間がかかっていました。議会の情報をもっと早く知りたいという住民や、議会の発言内容をすばやく確認したいという議員の声に応えるためにも、議事録作成の期間短縮は最も重要なテーマでした。第2の目的は、議事録作成コストの削減です。従来は、議会が開催されるたびに録音したMDからの原稿起こしを外部に委託していました。そのための費用は、年間約200万円。この委託業務費の削減も大きな狙いの1つでした。そして第3は、議事録作成における市議会事務局職員の業務負荷の軽減です。

「特別委員会などにおいて議事録作成が急務となったときなど、職員がその作業に1週間もの間かかりきりになってしまいます。そのため作成にあたる職員は、本来の業務に手がまわらないといった事態もありました」と、美唄市議会事務局の事務局長 藤井氏は語ります。こうしたさまざまな課題を解消するために検討されたのが、議事録作成支援システムの導入だったのです。

高度な音声認識精度と優れた編集機能の両立が導入の決め手でした

美唄市議会様では、2006年から議事録作成支援システム導入の検討をスタートしました。近隣や他県の議事録作成システムの視察も行いましたが、議事録作成における編集機能に対する満足度が低く、期待する時間短縮効果が得られないことが判明。しばらくの間システム導入を断念していたという経緯があ

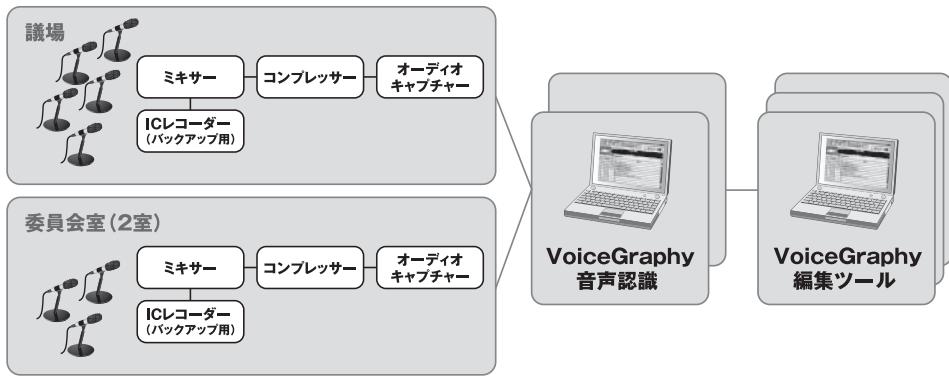


図 議事録作成支援機器構成

りました。そうした中2007年6月、議事録作成支援ソリューション「VoiceGraphy」を提案したのがNECでした。デモを見て、その優れた音声認識精度や編集機能に手ごたえを感じた美唄市議会様では、その後の委員会と定例会で「VoiceGraphy」を使って実際に議事録作成のパフォーマンスを検証。その結果、迷うことなく「VoiceGraphy」の導入が決定しました。

「VoiceGraphy」の最大の特徴はオーディオ機能と編集機能が1つのツールの中に一体化していること。音声の再生箇所と編集・修正の箇所が連動することで、原稿作成の作業が格段にスピードアップします。その魅力について主任 小見山氏は次のように語ります。

「VoiceGraphyは、議会の進行と同時に発言者の言葉をリアルタイムで次々とテキスト化。編集者は原稿を一から入力することなく、部分的な微調整で済むのが何よりありがたいですね。また、早口で言った言葉もしっかりと認識できますし、編集の際に頻繁に使うコマンドは画面の下に配置されているので、使いやすさの点も魅力です」

PC1台からのスマートスタート。 NECは、オリジナル辞書作成もサポート

「VoiceGraphy」は、サーバ導入など新たな設備投資も不要で、PC1台からのスマートスタートが可能です。美唄市議会様では、音声認識機能と編集ツールを1台のPCにインストール。PCは、オーディオキャプチャーやコンプレッサー、ミキサーを介して議場のマイクと結ばれています（図）。NECは、「VoiceGraphy」導入に際して、美唄市議会様から提出された10年分の議事録をもとに地域の固有名詞、議員名、各施設や各

部署名など、美唄市議会様の独自性に合わせたオリジナルの音声認識用辞書を完成させました。更にNECでは、効率的で精度の高い議事録作成のために、議場の音質や窓・ドアの遮音性など音響チェックも行いました。

従来に比べて、議事録作成の時間を半減。 外部委託経費も削減できました

美唄市議会様では、2008年6月から「VoiceGraphy」の稼働がスタート。既に定例会などで活用され、自らの発言内容をすばやく確認したいという議員の方の反応も上々です。

この「VoiceGraphy」導入により、議事録作成に関わる作業時間が約50%削減。議会開催から議事録の公開まで3カ月かかっていた期間を、1カ月に短縮することが現在の目標です。

また、これまで毎年約200万円かかっていた外部委託費の削減効果も見逃せないポイント。職員にとっては、PCを携帯していくつでもどこでも編集作業が行えることも好評です。

「現在、3名の職員が議事録作成に関わっていますが、その中の1名は4月から異動で配属されてきたばかり。これまで議事録作成の経験がないスタッフですが、6月の導入以降は経験者2名と変わらない編集作業をこなしています。編集に関するスキルの違いもほとんど感じません」と、「VoiceGraphy」の容易な操作性を小見山氏はそう説明します。

住民へのスピーディな議事録開示や、庁内職員のすばやい議会情報共有など、「VoiceGraphy」はこれからも、よりよい街づくりや職員の意識改革に大きく関わっていきます。音声認識技術分野で多くの実績を誇るNECでは現在、行政や司法機関のほか、放送局や一般企業の内部統制面など、幅広い分野へ

美唄市議会様 VoiceGraphy導入事例

議事録作成の期間短縮やコスト削減を目指して、音声認識と編集機能が一体化した「VoiceGraphy」を導入



写真1 美唄市議会様 議場



写真2 ミキサールーム

「VoiceGraphy」の積極的な展開を図っていきます（**写真1**、**写真2**）。

*本稿は、2008年8月20日に、<http://www.nec.co.jp/library/jirei/bibai/>に掲載された内容を、NEC技報編集事務局でまとめたものです。

問合せ先

NECソフトウェア北海道
ソリューション推進事業部
TEL:011-746-6384
URL:<http://dnes.jp/ss/voicesolution/>

※記載された会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。